C H I N A T O U R I S M

中國旅游

中国

世 界 遺 産

明·清時代の皇室陵墓

中华人民共和国国家旅游局
CHINA NATIONAL TOURISM ADMINISTRATION

次へ →

明・清時代の皇室陵墓
世界文化遺産

2000年、湖北省鍾祥市にある明の顕陵、河北省遵化県にある清の東陵および易県にある清の西陵などの皇室陵墓は、「世界遺産リスト」に収められた。その後の数年間、南京市紫金山上にある明の孝陵と北京市昌平県にある清の十三陵、瀋陽市にある清の福陵、昭陵と永陵も相前後に「世界文化遺産リスト」に収められるようになった。

明の孝陵は、中国最初の帝王の陵墓として、明・清両代の帝王陵墓の規格に極めて重要な意義をもたらしている。中国の封建時代においては、規模がかなり大きい明・清時代の陵墓は、人文景観と自然環境とをバランスよくとれたモデルと、中国の建築芸術の傑作であると同時に、中国封建社会における統治者の人生観、世界観、および長期にわたって中国を統治していた「風水(地相)観」を具体的に示しており、特に明の十三陵の場合は、場所の選定から、祭祀、管理に至るまで、風水学、哲学、建築学、地理学、美学および水文学に及ばないものがないだけでなく、さらには明代の政治、経済、軍事と文化の縮図となっている。

明の孝陵

明の孝陵

南京市東郊紫金山南麓の獨龍阜玩珠峰、茅山西側にある明の開国皇帝・朱元璋と皇后馬氏の共同墓地である。

築造は明の洪武十四年(1381年)に始まり、永楽三年(1405年)に完成するまでは合わせて25年の歳月が費やされた。築造に当てられた軍人は10数万人を数え、費やされた労力や物資は膨大な数だった。朝陽門(今の中山門)から孝陵衛、および陵墓の西と北までに築かれた塀は、長さ22.5kmに及び、護衛に当てられた軍人は5000人以上に上った。墓苑内は亭閣が軒を並べ、松の木が生い茂り、鹿の鳴き声は聞こえる。度重なった兵火のため破壊は厳しく、現在は神烈山碑、下馬牌坊、大金門、四方城と神道両側の石獣獅、獬豸、駱駝象、麒麟、馬など6種24匹,神道石柱2、文臣武将各4点しか残っていない。

「四方城」は碑を立てた亭のことである。頂上部は既に壊され、四角形の四壁しか残っていない。「龜趺座」の上に立てられた碑は、高さ8.78m。碑文は永楽帝・朱棣が自らの手で書いたもので、合わせて2746字あり、明の太祖の功徳を詳しく称賛している。台座にも碑の縁にも美しい彫刻が施されている。

神道(参道)の長さは約1800m。そのうちの中段は石象路と呼ばれ、その両側には12組の石獣(それぞれ獅子、駱駝、象と馬の6種)が相向かうように立ち並んでいる。その後側に立った高い華表は、雲龍の紋様が彫られた立派な立石である。北に伸びる神道の両側に、それぞれ4組の甲冑または蟒袍(竜紋の長衣)をまとった文臣武将の彫像がある。残念ながら、これらの彫像はすでに壊れている。石人も石獣も堂々とした体躯のもので、いずれも明代石刻芸術の高級品である。

明の顕陵

湖北省鍾祥市北東5kmの純徳山上にある。明の世宗、嘉靖皇帝の父親・恭睿獻皇帝の朱佑聿と母親の章聖皇太后蔣氏の共同墓地である。明の正徳十四年(1519年)に築造が始まり、明の嘉靖三十八年(1559年)の完成までは40年の歳月が費やされた。総面積は183.15ha。全体は2つの円形の「城」からなっており、城の外側は一回りで3600m、赤く塗られた壁と黄色い瓦を敷いたもので金碧に輝いている。規模が大きい建物は30数ヵ所を数え、山麓から頂上の順にそれぞれ純徳山碑、敕諭碑、外明塘、下馬碑、新紅門、旧紅門、禦碑楼、望柱、石像生、欞星門、九曲禦河、内明塘、陵恩門、陵寝門、双柱門、方城、明楼、前後宝城となっている。これらの建物は疏あり密ありて、周りの山水環境に溶け込ませるように建てられた、建築芸術と環境美学とを結びつけた傑作である。

顕陵は建物も周辺の環境も、ほぼ最初のままに保たれている。豊かな文化と独特な構造をもつ規模が大きい顕陵は、中国の古代帝王の陵墓の中でも輝かしい真珠の名に恥じない。

清の東陵

清代皇室の陵墓群である。河北省遵化県馬蘭峪にある。全部は孝陵(順治帝)、景陵(康熙帝)、裕陵(乾隆帝)、定陵(咸豊帝)、慧陵(同治帝)の5つの陵墓からなっており、ほかにまた5ヵ所の皇后陵、5ヵ所の妃陵と1ヵ所の皇女の墓がある。つまり5人の皇帝、15人の皇后、136人の妃、3人の皇子、2人の皇女と合わせて161人がここに埋蔵されているのである。580の単体建築物がある。神道の長さは14.500kmで、総面積は78km²に達している。

清の東陵の造営は西暦1661年(清の順治十八年)の孝陵の築造に始まり、1908年の東陵(慈禧太后陵)の完工を以って全工事の終了を告げた。清の東陵は、快適な気候だけでなく、雨も日照もほどよく、各種自然条件にめぐまれ、四季の区分をはっきりしている得難い「宝の地」である河北省遵化県馬蘭峪を選んで、中国独特な伝統風水学理論の指導のもとで造営されたものである。

十三陵は全体から見れば、山海関以南の地に入った清代最初の皇帝・順治帝の陵墓―孝陵を中心としている。この孝陵は、地相が最も素晴らしいとされた昌瑞山主峰の南麓に所在しており、他の陵墓はそれぞれ山の斜面に沿って、扇形のように孝陵の東西両側に点在されている。清代統治者が山海関以南の地で造営した最初の陵墓として、規模はかなり大きい。金星山麓の石牌坊から北の順に、それぞれ下馬牌、大紅門、具服殿、神功碑聖徳亭、石像生、龍鳳門、一孔橋、七孔橋、五孔橋、下馬牌、三路三孔橋および東平橋、神功碑亭，神廚庫、東西朝房、隆恩門、東西燎爐、東西脇殿、隆恩殿、琉璃花門、二柱門、祭台五供、方城、明楼、宝城、宝頂と地宮(墓室)などがある。大小さまざまで数10に上るこれらの建物は、長さ約6kmの神路(参道)により、完全な陵墓建物シリーズをつくりあげている。

明の顕陵

清・西陵

これらの建物は、配置も組み合わせも、風水学の中の「形勢理論」に基づいて、大小、高低、遠近、疏密などに対して、「百尺を形とし、千尺を勢とす」という尺度で視覚的コントロールを行った。各景勝の地に対しては、いずれも建物の対応景色、補助景色として上手に借用している。その結果、「遠勢を駐めて以って環形とす　巧みに形を聚めて勢を展める」の目的が実現され、「高いが険せず、低いが卑せず、疏はあるが寂しくせず、密はあるが迫らず」、及び「静の中に動あり、動の中に静あり」といった素晴らしい視覚的効果と美的楽しみを観る人に与えている。

大石牌坊は清・東陵のシンボルマーク的建物で、陵区の表玄関となる「大紅門」の前にある。間口は31m以上で、高さは12.5m、中国のトップとなる鳥居式の門である。300年この方、高くて立派なこの建築芸術の作品は、何回も地震に揺られたが、今も最初のままで健在している。

隆恩殿前の龍鳳丹陛石は、慈禧(西太后)の陵墓となる隆恩殿前の石の欄干のことである。西太后は1人で政権を握っている機に乗じて、何年も修理を怠っている口実で、光緒二十一年(1895年)から、菩陀峪に所在する彼女の陵墓を建て直させた。工事は、彼女が死ぬ数日前にようやく完成するまでは13年もの歳月が費やされた。隆恩殿を囲む周辺の石の欄干には、各種形態の竜や鳳凰の彫刻が施されており、透かし彫りの手法を駆使した殿前の丹陛石の上に彫られた鳳凰や竜は、とりわけ生き生きとして真に迫っている。一般の丹陛石に刻された竜や鳳凰は、竜と鳳凰が並んでいるように彫られているが、慈禧陵の丹陛石だけは、「鳳凰が上、竜は下」のように彫られている。

明の十三陵の地下宮殿

清の西陵

清の西陵は河北省易県永寧山麓にある清王朝皇室の陵墓群の1つである。全部は泰陵(雍正帝)、昌陵(嘉慶帝)、慕陵(道光帝)、崇陵(光緒帝)の4人の皇帝の陵墓、3人の皇后、3人の后妃、3人の王公と皇女の陵墓をはじめ14の陵墓があり、76人の皇室メンバーが埋蔵されている。合わせて1000以上の建物があり、床面積は5万m^2以上で、100余りの石づくりの建物と石の彫刻は、ほとんど完全な形に保たれている。周辺は視野が広い丘陵地帯になっており、木々は生い茂り、素晴らしい景色がある。

清・西陵の402の古代建築は、基本的に明代の皇帝・后妃の陵墓の様式に基づいて築造されたものではあるが、清代宮廷の等級制度を厳格に守りながらも、それに拘泥せず創造的に築造したものもある。単門というこれまでの規制を改めて、3門のものにした大紅門前の石牌坊はその1例である。材料の選定と工芸の面でも、これまでのものよりいっそう美しく、いっそう細かくなった。例えば慕陵殿前の楠の彫刻は、その他の陵墓が用いる彩色絵のやり方を突破して、原木に蝋をつける技法を用いたため、いっそう美しくなった。道光帝の代になってから、陵墓の建物はやや衰えを見せたが、石像生、聖徳神功碑亭、明楼、方城などの建物は、琉璃門の代わりに石牌坊を用いたため、こじんまりした新しいモデルとして現れた。昌西陵を囲む羅圏壁と宝頂前を走る参道のこだま効果、隆恩殿内の藻井(天井)でなければ見られない丹鳳彩色絵などは、いずれも中国の陵墓建築の特殊な例となっている。これらの特殊なところが多い清の西陵は、清代の陵墓築造にも特色があるものであることを立証している。

明の十三陵

明の十三陵は、北京市昌平県の天寿山麓に広がる周囲40km^2の小さな盆地の上に点在している。陵墓区は最初、塀で囲まれおり、正面玄関は南端に聳え立った蟒山と虎峪の両山に挟まれている。十三陵の中でも最も有名な見ものは、なんと言っても雄大な長陵と発掘された定陵の地下宮殿(墓室)であろう。この十三の陵墓はそれぞれ成祖帝の長陵、仁宗帝の獻陵、宣宗帝の景陵、英宗帝の裕陵、憲宗帝の茂陵、孝宗帝の泰陵、武宗帝の康陵、世宗帝の永陵、穆宗帝の昭陵、神宗帝の定陵、光宗帝の慶陵、熹宗帝の徳陵、毅宗帝の思陵である。これらの陵墓は、面積と建築物の大小を除けば、建物の配置や、規制はほぼ同じで、断面は長方形になっており、後ろ側には円形(または楕円形)の宝城(墓穴の盛り土)がある。建物は石橋からの順でそれぞれ陵門、碑亭、棱恩門、棱恩殿、明楼、宝城などとなっている。

十三陵の長陵は雄大な建物で、定陵と同じような十三陵観光の目玉である。

長陵は明の成祖帝・朱棣の陵墓である。そのうちの横恩殿はまたの名を稱獻殿、享殿と称されており、長陵の主体建築として、祭祀を行う重要な場所である。長陵の横恩殿は1427年に建てられた雄大な建物で、3層からなる漢白玉石の台座の上に立っており、間口は九間で、奥行きは五間、総面積は1956m^2である。殿を支える32本の「金絲柄木明柱」と呼ばれる楠の柱は、最大のもので直径1.17m、高さは14.30mである。楕円形につくられた梁、柱、桁、升形などの部品は楠の原木を用いたもので、500年余りの風雨にさらされても、今なお最初のままで芳しさを漂わせている。横恩殿は楠を用いた中国最大の宮殿である。

定陵は長陵の規制に照らして築造された明の神宗帝・朱謝翊の陵墓である。神宗帝は10才の時に位につき、年号を万暦とし、明朝でも在位時間が最も長い皇帝(48年)である。定陵の地下宮殿(墓室)は1956～1958年、科学的発掘を経て定陵地下博物館として一般に公開されている。地下宮殿は前、中、後および左右両側にある5つの、高くて広い地下宮殿からなっており、いずれもアーチ型の石造りのものである。全部で7つある石の門は、科学的に設計されたもので、重心が軸部に集められたため、扉の重さが4トンに達したにもかかわらず、それを開いても閉めてもとても簡単で便利である。

地下宮殿の配置は、基本的に「前朝後寝」の規制を取っている。前半は如何なる調度品もなく、死者が生前住んだ宮殿前の広場のようにされている。中央部分は死者が生前、政務を取り捌く朝廷―「朝月宮殿」の本殿のようにしており、3つの漢白玉石づくりの「王座」が品の字形のよう並べられ、その前にはそれぞれ1つの線香、蝋燭、花などの供物を並べるための黄色琉璃製の「五供」のほか、また、燃えていて永久に消えない「長明燈」灯りの油を盛った大きな磁器製の甕がそれぞれ1つある。左右両脇殿は如何なる副葬品もない。後殿は寝殿に相当するもので、「玄堂」と称され、宮殿の主要部分として棺が安置されている。棺床(棺を安置する台)の中央には、万暦帝と孝端、孝靖両皇后の棺が置かれており、3棺の周辺には、副葬品としての梅瓶、玉料と金銀玉器を盛った、漆で赤く塗られた26の木箱が並べられている。

定陵で出土した副葬品のうち、皇帝の「皇冠」と皇后の「鳳冠」は最も人々の目を引いている。万暦帝の皇冠は、極く細かな金の糸で編んだもので、その上には2匹の竜が戯れている大きな真珠がはめ込まれている。一番上に象嵌された食指大の猫目石は光り輝いていて、世に稀にしか見ない珍宝である。

福陵

昭陵

福陵

福陵は遼寧省瀋陽市東郊の天柱山上にあり、俗は東陵と称されている。清の太祖・努爾哈赤と孝慈高皇后・葉赫那拉氏の陵墓である。康熙と乾隆年間には増改築が行われた。敷地面積は19.48万平方メートル。主要建築には正紅門、碑楼と方城がある。方城は陵墓の主体建築で、これを囲んだ塀の四角にはそれぞれ1つの角楼がある。北の明楼の中には石碑1つが立っている。方城の真正面の中央は隆恩門に当たっており、方城内の真ん中の台座の上には隆恩殿が建てられている。方城の北面は宝城と月牙城と呼ばれる建物があり、宝頂地下の宮殿には努爾哈赤と葉赫那拉氏の棺と骨灰が安置さている。

昭陵

昭陵は遼寧省瀋陽市街の北部にあり、俗は北陵と称されている。清の太宗皇太極と孝端文皇后・博爾済吉特氏の陵墓である。「関外(山海関以北の地)三陵」の中で規模が最も大きい1つとして、総面積は450万平方メートルに達している。大きくて3部分に分けられる。下馬碑―正紅門部分、正紅門―方城部分と主体部分としての方城(月牙城と宝頂など)部分で

遼寧瀋陽の「老房子」レストラン

武漢市の東方大酒店

民間舞踊

ある。主要建物には隆恩殿、隆恩門、明楼、焚帛亭と地下宮殿などがある。

永陵

遼寧省新賓満州族自治県都西21kmのところ、啓運山麓を流れる蘇子河の辺にある。清の太祖・努爾哈赤の父親、祖父、曽祖父、遠祖および伯父、おじなど皇族の墓である。主に下馬碑、前宮院、方城、宝城、馬小屋、冰貯蔵室、果楼などからなっている。啓運殿は永陵の主体建築である。敷地面積は全体で1万1900平方メートルに達する。

観光イベント

明・清時代の皇室の陵墓は主に北京、河北、江蘇、湖北各地に分布している。これらの地区の祝祭日は、春節(旧正月)、中秋節、建国記念日、元日などがあり、みな似たり通ったりしている。花会(花見)、廟会(縁日)、燈篭大会は、春節から元宵節までの期間中に催される盛大な民俗のイベントである。ほかに、各地による観光のイベントもある。

味　覚

北京料理は皇室から伝わってきた宮廷料理に基づいて、各地料理の長所を取り入れてできた料理を主としおり、このうち最も有名な料理は「北京烤鴨」と呼ばれる北京ダックの丸焼きである。南京料理はあっさりしたものを主とする南方の特色がある。このうちのダックの塩漬け物―「南京塩水鴨」は、名が広く天下に知れ渡っている。湖北料理は、淡水魚を用いる料理が得意で、長江南岸地域の水郷の特色が目立つ。遼寧料理は山東料理を基礎に発展してきたもので、民間に伝わっている宮廷料理の特色がある。原材料の選出に気を配っている栄養価が高いもので、色、香、味と美しい盛り合わせをそろえて、名が広く知れ渡っている。主要料理には「滿漢宴席」、大連海鮮、老辺ギョウザなどがある。

ショッピング

北京の工芸品には景泰藍(七宝焼き)、象牙彫刻、玉器、漆彫刻、金石篆刻、文房四宝、骨董・掛け軸、シルクと刺繍、珠玉翡翠、じんこう細工、泥人形、絹人形、京劇の隈取、凧、切り紙などがある。南京の雨花石、雲錦(絹織物)、金陵畳扇子などは有名。遼寧の観光土産は主に壁掛け布工芸品、満州族の香荷包(巾着)シリーズ、ひょうたんの彩色絵掛けなどがある。湖北は楚文化を特色とする文物の複製品および根彫刻、盆景、珍しい石、竹編み、陶磁器などの民間工芸品がある。

北京の前門

北京の王府井歩道街

魚の白蒸し物

南京新街口の火鍋(しゃぶしゃぶ)

主要ショッピング・センター

北京市内免税品店、北京友誼商店、北京工芸美術商店、元隆絲綢(シルク)股份有限公司、北京古玩城(骨董品市場)などは北京の主要ショッピング・センターである。南京の湖南路商店街、夫子廟美食街、太平南路名品街は、南京でもマーケットが集中するところ。湖北省武漢の商店街としては、江漢路歩道街、新世界百貨商場、武漢世貿広場、漢正街小型商品市場などがあげられる。瀋陽の主要商店街は主に中街(歩道街)、太原街などがあり、南湖公園骨董品市場の数10に上る骨董品売店では、骨董、掛け軸、陶磁器、、玉器、珠玉翡翠、古銭などが買えられる。

南京夫子廟の秦淮人家

一部のホテル

店名	クラス	場所	電話
北京飯店	★★★★★	北京市東長安街33号	10-65137766
北京国際店	★★★★★	北京市建国門内大街9号	10-65126688
中国飯店	★★★★★	北京市建国門外大街1号	10-65052266
貴賓楼飯店	★★★★★	北京市東長安街35号	10-65137788
南京古南都飯店	★★★★★	南京市広州路208号	25-3311999
南京金絲利シェラトン	★★★★★	南京市建鄴区漢中路169号	25-6668888
瀋陽皇朝万豪酒店	★★★★★	瀋陽市和平区青年大街388号	24-23883456
瀋陽麗都シェラトン	★★★★	瀋陽市和平区青年大街386号	24-23188888
武漢東方大酒店	★★★★★	武漢市漢口火車站広場東側	27-85888668
武漢シャングリラ	★★★★★	武漢市漢口建設大道700号	27-85806868

主要旅行社

社名	場所	電話
中国国際旅行本社	北京市復興門内大街103号	10-85228888
中国旅行社本社	北京市北三環東路2号	10-64622288
中国青年旅行本社	北京市東交民巷丙23号	10-65078063
中国康輝旅行本社	北京市朝陽区農展館南路5号	10-65940856
南京中国国際旅行社	南京市中山北路202-1号	25-83538730
江蘇省中国旅行社	南京市中山北路313号	25-83431502
遼寧省中国国際旅行社	瀋陽市黄河南大街113号	24-86806980
遼寧海外旅遊総公司	瀋陽市北陵大街26甲	24-86863959
湖北省海外旅遊総公司	武漢市台北一路26号	27-85784117
武漢市海外旅遊総公司	漢口宝豊路1号	27-83612973

全国統一の特種サービス電話

中国国際電話頭番号:0086	警察通報先:110	交通事故通報先:122
市内電話番号案内:114	国内長距離電話予約:113	国際電話予約:115
火事通報先:119	救急センター:120	天気予報:12121

中国国家観光局（東京）

東京都港区虎ノ門2-5-2 エアチャイナビル8F
郵便番号：105-0001
電話：03-3591-8686
ファックス：03-3591-6886

中国国家観光局大阪事務所

大阪市浪速区湊町1-4-1OCAT ビル4F
郵便番号：556-0017
電話：06-6635-3280
ファックス：06-6635-3281

中華人民共和国国家観光局

アドレス：北京市建国門内大街甲9号
電話：0086-10-65201114
ファックス：0086-10-65122096
ホームページ：http://www.cnta.gov.cn

CHINA TOURISM

中國旅游

明・清時代の皇室陵墓

中华人民共和国国家旅游局
CHINA NATIONAL TOURISM ADMINISTRATION

ご覧いただきありがとうございます！